



さあ、答え合わせをしよう！

第33週目 3/8 行ってみよう～香川県(かがわけん)からの出題

※ココを見てね! ▶行ってみよう～香川県(かがわけん)

1. 香川県(かがわけん)の石棺(せっかん)は、どこに広がりましたか？

正解:②北海道と南西諸島以外の日本列島(れっとう)

香川県(かがわけん)の特徴(とくちょう)を読めばわかりますね。正解は、②北海道と南西諸島以外の日本列島(れっとう)です。香川県(かがわけん)は、石器(せっき)の材料に適(てき)した「サヌカイト」という石がたくさん採(と)れました。そうした石を使ってさまざまな工夫を凝(こ)らし、石器(せっき)や石棺(せっかん)を作る技術(ぎじゅつ)を高め、栄えたんだよ。

2. 板のように薄く割ってつくるのが特徴的な金山遺跡(かなやまいせき)の「石核」、これ何と読むのかな？

正解:②せっかく

石器(せっき)を作るには、大きな石を少しずつ割(わ)って、小さな石のカケラをつくり、それをまた割(わ)って形をととのえていきます。もとの大きな石のことを母岩(ぼがん)といい、それを割(わ)ってつくるカケラを剥片(はくへん)、剥片(はくへん)をとった残りの大きな石を石核(せっかく)とよびます。正解は、②せっかく。「お宝ベスト5」1つ目も、みてね。

3. 香川県(かがわけん)では、「6人の男女の土偶(どぐう)」がまとまって見つかりました。その場所は、次のうち、何の跡地(あとち)でしたか？

正解:③高松空港

みつかったのは、男女6人の小さな土偶(どぐう)。まるで、日本版「7人の小人」のようですね。正解は、③高松空港です。「お宝ベスト5」2つ目に写真付きで紹介(しょうかい)されていますよ。「遺跡(いせき)は宝物」と言いながら、そのままの状態(じょうたい)で残されたものはごくわずかです。だけど、出土品(しゅつどひん)は見ることができます。博物館(はくぶつかん)や資料館(しりょうかん)、埋蔵文化財センターへも出かけてください。きっと、新しい発見があるよ。

4. 磨白山古墳(すりうすやまこふん)からみつかった石棺(せっかん)にはあるものがデザインされ、彫(ほ)られていました。それは、何ですか？

正解:②まが玉

「お宝ベスト5」4つ目の写真を見てください。石の棺(ひつぎ)に浮かび上がった模様(もよう)が、とても美しいですね。大昔も現代も変わらない傾向(けいこう)として、亡くなった人が大きな権力(けんりょく)をもっていた場合や、有力者(ゆうりょくしゃ)であればあるほど、墓(はか)も立派(りっぱ)で棺(ひつぎ)にもこだわっているようです。正解は、②まが玉でした。

5. 丸井古墳(まるいこふん)から出土(しゅつど)した銅鐸(どうたく)は、次のうち、何とよばれていますか？

正解:②画文帯神獣鏡(がもんたいしんじゅうきょう)

「お宝ベスト5」5つ目に紹介(しょうかい)されている鏡(かがみ)が、正解の②画文帯神獣鏡(がもんたいしんじゅうきょう)です。不老長寿(ふろうちようじゅ)を願い、神仙界(しんせんかい)／【神さまや仙人(せんじん)が住むとされた仮想(かそう)の世界】の理想郷(りそうきょう)を図案化(ずあんか)した文様(もんよう)です。ちなみに、三角縁神獣鏡(さんかくぶちしんじゅうきょう)は、いちばん外側の断面(だんめん)が三角形にとがっています。直弧文鏡(ちよっこもんきょう)は、すべてが直線と弧(こ)でデザインされており、外側に幾何学的(きかがくてき)な文様(もんよう)がほどこされています。

現在(～2021年4月9日(金)まで)、高松市埋蔵文化財センターで、「時時刻刻(じじこくこく)の高松」展を開催中(かいさいちゅう)。旧石器時代(きゅうせっきじだい)～江戸時代(えどじだい)まで約2万年にわたる高松市の遺跡(いせき)について、展示(てんじ)・紹介(しょうかい)しています。ぜひ、出かけてみてね。

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kosodate/bunka/maizobunkazai/bunzai_up20200629.html